

川内2号機第5回安全性向上評価届出書の既届出書との差異について

川内2号機第5回届出書（以下、「本届出書」）と、川内2号機第4回届出書を比較し、記載内容に差異がある箇所（評価対象期間の違いに伴う差異等を含む）を下線で示す。

なお、評価対象期間又は号機の違いに伴う内容の差異はあるが、本届出書では、川内1号機第5回届出書と同様の評価を実施した。

| 届出書 | 川内2号機 第4回 | 川内2号機 第5回 |
|--------|--|---|
| 評価対象期間 | 2020.1.24～2021.1.22 | 2021.1.23～2022.7.11 |
| 1章 | <ul style="list-style-type: none"> IAEA GS-G-4.1 (DS449) 典型的目次に基づきプラントの最新状態を記載。 | <ul style="list-style-type: none"> 安全性向上評価の運用ガイドの章立てに基づきプラントの最新状態を記載。 |
| 2章 | <ul style="list-style-type: none"> 評価対象期間中の改善活動、新知見への対応状況について調査。 | <ul style="list-style-type: none"> 評価対象期間中の改善活動、新知見への対応状況について調査。 実績指標の見直しを実施。 新知見の記載方針見直し、調査対象範囲の拡充を実施。 |
| 3章 | 決定論的安全評価 <ul style="list-style-type: none"> 保安活動や新知見に係る調査等を確認した結果、決定論的安全評価について変更が必要となる項目なし。 最適評価が可能な解析コードである SPARK LE-2 を設計基準事故に適用して解析を行い、より現実的な挙動を把握。 CV 過圧破損事象に対して、特重施設による CV スプレイや炉心注水を活用した場合の挙動解析を実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 大規模工事等はなく、既評価の改訂不要。 SA 設備のみでは炉心溶融を防止できないシナリオに対して、早期に準備可能な特重施設を活用した場合の挙動解析を実施。 フィルタバント実施のタイミング変更等による、放出放射線量への影響確認を実施。 |
| | P R A <ul style="list-style-type: none"> 特重施設設置完了に伴い、格納容器破損防止機能に着目し、以下の評価を実施。 <ul style="list-style-type: none"> 内部事象（出力運転時レベル2） 外部事象（地震、津波） （出力運転時レベル2） 敷地境界における実効線量評価 | <ul style="list-style-type: none"> 大規模工事等はなく、既評価の改訂不要。 特重施設の SA への活用を踏まえた評価として、設計・運用情報等の更新、新たな知見を反映した評価手法の高度化等を実施した以下の評価を実施。 <ul style="list-style-type: none"> 内部事象（出力運転時レベル1、2） |
| | S T <ul style="list-style-type: none"> 特重施設設置完了に伴い、格納容器破損防止機能に着目し、以下の評価を実施。 <ul style="list-style-type: none"> 格納容器機能喪失対策評価 | <ul style="list-style-type: none"> 大規模工事等はなく、既評価の改訂不要。 |
| | 中長期 評価 <ul style="list-style-type: none"> IAEA ガイド No.SSG-25 に基づき評価を実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 次回の評価を実施するまでの期間は、評価に必要なデータを収集する。 |
| 4章 | <ul style="list-style-type: none"> 1章～3章の内容を踏まえ、総合的な評定を実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 1章～3章の内容を踏まえ、総合的な評定を実施。 今後の安全性向上に向けた短期的及び中長期的な方針に、発電所の実態に即したリスク評価・管理を実施する旨を追記。 |